

話題提供



平成24年5月25日
第七管区海上保安本部

問い合わせ先
海洋情報部海洋調査課長 河合 晃司
電話 093-321-2931 (内線) 2530

6月6日に金星の日面経過が起こります。

6月6日に金星が太陽の表面を黒い点となって通過していくように見える珍しい天文現象～金星の日面経過～が起こります。日本では今回の金星の日面経過は最初から最後まで見ることができます。

金星の日面経過は、太陽と金星、地球がほぼ1直線に並んだ時に起こる現象で、日本では2004年6月8日に全国で見られましたが、その前は138年前の1874年(明治7年)12月9日となります。また、次回の金星の日面経過は105年後の2117年となります。

6月6日の金星の日面経過の北九州市における予報時刻は以下のとおりです。

金星の日面経過の始まり	7時11分
金星と太陽の中心が最も近い時刻	10時30分
金星の日面経過の終わり	13時47分

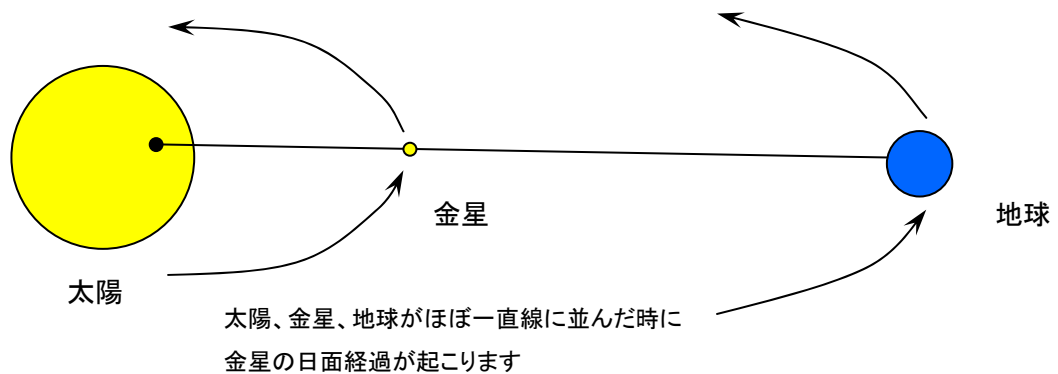
海上保安庁では、船舶等が天体を利用して航海するための天文航法に必要な太陽、月、星などの天体の位置や各港の日出没時刻を掲載した「天測暦」を刊行しています。

危険ですので、太陽を直視しないでください！

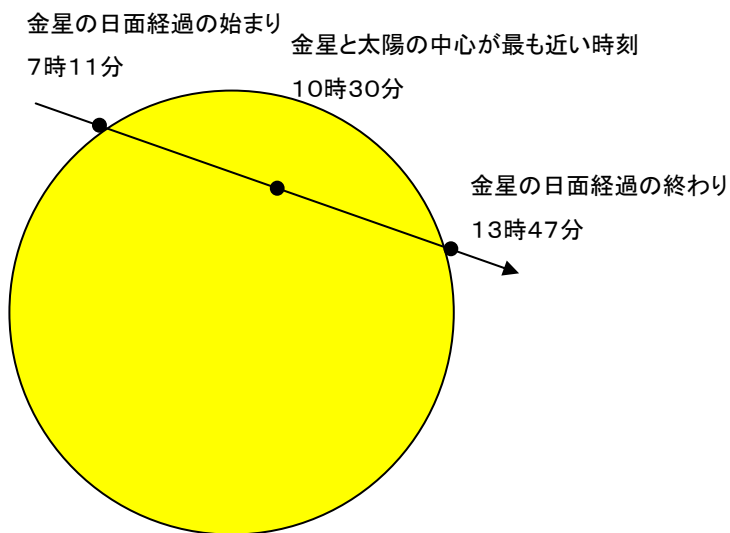
肉眼での太陽(金星日面通過)の直視は大変危険で目の障害につながります。(5月21日の金環食で使用した日食観察グラス等をご利用ください)

望遠鏡を用いた観測は直視よりも更に危険です。観測は望遠鏡操作に熟練した方の指導に従って行ってください。

金星の日面経過の模式図



2012年6月6日の金星の日面経過の様子



コラム 日本初の国際天文共同観測

1874年（明治7年）の金星の日面経過時には日本が観測の最適地であったため、諸外国において日本での観測が計画された。明治5年にアメリカ政府からその観測許可申請があったとき日本では水路寮（後の海上保安庁海洋情報部）が観象台（天文台）の整備を志していた矢先であったことから、観測手法を学ぶ好機と考えこれを許可することとなった。

観測は、東京、長崎、神戸、横浜で行われ、アメリカの他に、フランス、メキシコが参加した。

この時、金星の日面経過に併せて、長崎～ウラジオストック間、さらに延長してパリ、ロンドン等において経度の観測が行われ、日本で始めて正確な経度が求められた。